

ACE だより

特定非営利活動法人アジア地域福祉と交流の会 (Asia Community Service & Exchange)

〒 156-0055 東京都世田谷区船橋 1-30-9 社会福祉法人「嬉泉」内

Tel 03-3426-2323 Fax 03-3706-7242 郵便振替番号 00180-3-357538

<http://www5f.biglobe.ne.jp/~ace-jps/>

E-mail:kenkn@tm.net.my(ケンケン)akemiu@tm.net.my(アケミウ)

断絶を超えて、平和の道を！

中澤 健

吉永小百合さんの朗読でも知られる、峠三吉氏の「原爆詩集」の序として収められた“ちちをかえせ ははをかえせ”で始まる詩は、誰に向かって「かえせ！」と叫んでいるのだろうか。一瞬にして町が失せ、衣服も皮膚も焼けただれ、愛するものを亡くし、苦痛の呻きが満ちる中、そして、如何に叫ぼうと戻らない絶望感の中で。

6 月に帰国した折、飯田進氏にお会いした。氏の著書「地獄の日本兵」(新潮新書)にはニューギニアでの日本兵の惨い姿が描かれている。信じ難い状況で飢えて死んでゆく兵士。銃を捨て、食料もなく、マラリアや下痢と闘い、泥沼を逃げまどい、力尽きた兵士たち。殆どが飢え死んだか自決したという戦争末期。戦争指導者から、敗戦前に既に見捨てられていた彼ら。

多くの日本人は、戦争の理不尽や悲惨さ、平和の大切さを理解するに違いない。そして、彼らの犠牲の上に今の平和があるから、これを守らなければ、と。

そうだろうか。それで良いのだろうか。原爆の恐ろしさ、兵士の無念、沖縄の悲しみは、確かに共有できているだろうか。沖縄と本土に横たわる溝のように、原爆についても、悲しみも、無念さも、体験者や当事者とその他の人たちの間には、『断絶』があるのではないだろうか。戦後 65 年を経た。8 月には戦争や平和の話題が映像で流される。だが、被爆者の苦しみは 8 月だけではない。65 年間、1 日も休まず続いている。沖縄の悲しみは、今後に向かって生み出されている。

私たちは、その断絶にさえ気付いていないのではなからうか。体験者とそれ以外、そう、障害者も困窮者も、いわゆる弱者・少数派といわれる人たちは皆そうだ。多数派と少数派は、永久に溝を抱えなければならないのだろうか。

断絶を埋めるには、何より知る努力、もっと近づくことが必要ではないか。実像を知るために、体験者の話を聞き、その場所に我が身を置くことを、労を厭わず身銭を切ってすべきではないか。

世界は動いている。核廃絶への道が開かれつつある。「平和まけ」などという不名誉から脱して、戦力を放棄した国民として、武器に依らない平和実現への意志を、行動で示す時ではないだろうか。

欲しければ手に入る時代だが、本当に欲しいものは簡単ではないはずだ。険しい道でも、時間をかけてでも、これは手に入れなければならない。願いつつ動けば、きっと手に入ると信じて。

11 月、沖縄地方会が近づいてきた。この思いを胸に、私は沖縄に行こうと思っている。

平成22年度ACE総会報告

日時 平成22年6月19日 (土)

13:30分～15:00分

場所 東京・南青山会館

1. 総会員数 494 名
 1. 出席した会員数 251 名
 内訳 本人出席 49 名
 委任状出席 202 名

1. 審議事項

- (1) 第1号議案 役員の改選について
 (2) 第2号議案 平成21年度事業報告案
 および収支決算案承認の件
 (3) 第3号議案 平成22年度事業計画案
 および収支予算案承認の件
 (4) 第4号議案 議事録署名人について

1. 議長選任の経過

定刻に至り、司会者山村健(副理事長)が開会を宣し、本日の総会出席者数は定款規定数を満たしたので総会が有効に成立した旨告げ、議長の選任方法を諮ったところ、満場一致をもって蒲田尚史氏が議長に選任された。続いて議長より挨拶の後、議案の審議に入った。

1. 議事の経過の要領及び議案別議決の結果

第1号議案 役員の改選について

議長は、役員全員の任期満了につき理事長より本案について附議された旨を述べ、これを議場にはかったところ、満場一致をもって、次の者を理事及び監事に選任、承認された。この承認事項について、全役員が6月22日付けで重任することとした。また、理事の役割も確認し、総会出席会員に紹介した。

理事 中澤 健(重任) 理事 北沢 清司 (同)
 理事 山村 健 (同) 理事 奥村 幸子 (同)
 理事 内海 明美(同) 理事 小野 鎮 (同)
 理事 小室 道章(同) 理事 田島 良昭 (同)
 理事 土屋 弘道(同) 理事 大原 敦 (同)
 理事 大岩 香代子(同)
 監事 大井 英子(重任) 監事 山口 泰弘 (同)

第2号議案 平成21年度事業報告案および収支決算案承認の件

中澤健理事長が添付資料により、平成21

年度の事業報告を行った。海外支援協力事業(ベナンの3事業と本人の会支援・サラワクのデイセンター運営・報告会総会・現地交流事業(ベナン・サラワク2月21日から8日間)・地方会(於富山県・富山市11月18日)・会紙(ACEだより)の発行・ボルネオ、サラワクの事業・現地調査(ロングハウス訪問調査)・広報紙(Dari Kuching)の発行等について詳細な説明を行った。続いて奥村幸子事務局長が、添付資料により平成21年度の収支決算報告を行った。これについて、大井英子監事より、ACE関係の諸帳簿、証票等が適正に処理されているとの監査報告がなされた。議長が本案を議場に諮ったところ、満場一致をもって、異議なく可決決定した。

第3号議案 平成22年度事業計画案および収支予算案承認の件

平成22年度事業計画案、予算案について、中澤健理事長が添付資料により説明をした。内容は、平成21年度と同じ7事業を予定し、海外支援協力事業(ベナン・サラワク)、報告会総会、現地交流事業(現地視察旅行・サラワクワークキャンプ2回)、地方会(沖縄県11月)会紙発行(「ACEだより」年2回)、サラワク福祉状況調査継続、広報紙発行(“Dari Kuching”年3回)等について詳細を説明、会員の理解を求めた。議長から本案を議場に諮ったところ、満場一致をもって、異議なく可決決定した。

第4号議案 議事録署名人について

議長より本日の議事をまとめるにあたり、議事録署名人2名を選任することを諮り、中澤健理事長および奥村幸子理事を選任することを全員異議なく承認した。

その他

沖縄での地方会開催について説明と参加の誘い(村田涼子)・・・うちなんちゅ(お金はついてくる)ゆいまーるの世界を共有しよう!歴史を探ろう!

現地(ベナン・サラワク)におけるサポーター、星野さんの紹介

以上、略述した通りの経過で平成22年度の通常総会は閉会となった。

現地報告② 『マレーシアでの経験・感想を語る』

～私たちが感じたこと・その後～

鳩の森のみなさん



＜経験と想いを語ってくださる鳩の森のみなさん＞

私たちが勤めている保育園、社会福祉法人はとの会「はとの森愛の詩保育園」は神奈川県横浜市にあります。鳩の森愛の詩保育園、通称“鳩の森”は子どもをまん中に、保育者と父母が手をつなぎ合い、支え合い、成長し合うことを「共育て共育ち」と呼んで、日々の暮らしの原点にしています。本園は今年で26年目を迎えました。この間に姉妹園が2つできました。キッズクラブという小学生を対象とした施設も2つできました。法人の5施設に勤める職員の数も100人を越え、幸せが豊かに実っている昨今です。

中澤先生との出会いは、鳩の森愛の詩保育園ができる、ずーっとずーっと前に遡ります。初代はとの会理事長である瀬沼哲雄、通称せぬパパが国立秩父学園に入学した際、教官としてお勤めだった中澤先生と出会ったことに端を発します。中澤先生曰く、「哲雄さんと僕はウマがあってねー。よく夢を語り合いましたよ」とのこと。その後、せぬパパは横浜市の知的障害者施設へ従事しました。中澤先生のお顔を直接見ることはなくなりましたが、せぬパパの心の中に常に中澤先生がいたことは、せぬパパの伴侶であり、現在のはとの会理事長である瀬沼静子、通称せぬママからよく耳にしていました。

今から13年前くらいになるでしょうか。せぬパパが他界した際、せぬママは、みなさまからいただいたお香典を、すでにマレーシアの地で活動されていた中澤先生に贈りました。先生は、そのお金を、この赤い車に使わ

れたそうです。車に「S ENUMA」の文字が刻印された赤い車、マレーシア・ペナンのACSで移動おもちゃ図書館として、大活躍をしているそうです。

中澤先生からお誘いをいただき、法人の職員5～6名とともに視察旅行に参加させていただいたのは数年前からです。2004年3月の第1回視察旅行、2009年2月の第6回視察旅行、2010年2月の第7回視察旅行…。回を重ねるたびに、中澤先生から語られる「夢」、先生のお話から繰り返してでくる「共生」、「to とか for ではなく with」という言葉の教々が私たちの心の深いところに染みこんでいきました。「共育て共育ち」の私たちの理念と重なります。大切なものをいただいて、また、子どもたちに向き合える…何よりの幸せをいただいたと思います。「この幸せを法人職員みんなに届けたい、共有したい」視察旅行に参加した職員誰もが口にする思いです。

今年の2月、第7回視察旅行の様子を少し駆け足で報告させていただきます。

私たちがムヒバを訪れた日。利用者のみなさん誰もが鳩の森で作成しているTシャツ…鳩の森Tシャツを着て出迎えてくれました。そして、利用者の方々によるイバン楽器の演奏！…中澤先生曰く「イバンの楽器を演奏してお客様を出迎えること、実は初めてなんです」とのこと。みなさんのあたたかな気持ちやギョッと集まったような演奏。なんてやさしい音色だったでしょう。

そして、今回の私たちのお土産も…やっぱり鳩の森Tシャツです。Tシャツを手にとった利用者のみなさん。バンザイにも似た喜びのようにこちらもバンザイ！したくなりました。鳩の森Tシャツを持ってきてよかった！



＜移動おもちゃ図書館＞



<Tシャツをいただいて嬉しいメンバーたち>

先生にはより元気に、健康でいていただきたい、とメイド・イン・ジャパンの「透明な魔法の水」をお渡ししました。

これは余談です。

イバンの子どもたちと日本の遊びを一緒に楽しみたいと…日本からベイゴマとベイゴマの土俵を持っていきました！提案者は小学2年生、瀬沼哲歩くん。せぬパパのお孫さんです。小学1年生から8年生までが集うキッズクラブで「横綱」の称号をもらった哲歩くん曰く、「去年、ロングハウスを訪問した時、サッカーの仲間に入れてもらったお礼をしたい」とのことでした。哲歩くんのお父さんの幹太さん以外はベイゴマを回したことがない私たち職員3人。哲歩くんの厳しい指導のもと、イバンの子どもたちと会う前になんとか回せるようにとベナンとシブのホテルで猛特訓をしました。

そしてロングハウス訪問の日。イバンの子どもたちに紹介したところ、子どもたちだけでなく、大人たちも興味津々。誰もがベイゴマを手にし、見よう見まねでトライしていきます。そこに「アイム ベリー ストロングマン！」の声とともに参戦してきたのは、今回の旅でも大変お世話になりました土屋さん。そして福田さんでした。ストロングマンお二人の強いこと！一気にレベルが高くなるベイゴマ大会でした。言葉は通じなくても気持ちは通じる。時間も忘れて「いっせーのせ！」を何度繰り返したことでしょう。帰る頃には哲歩くんを負かすイバンの子どもたち

もでてくるほどでした。

ベイゴマと土俵は、みなさんにプレゼント。「来年また来るね」の握手をして今回の旅は終わりにになりました。

マレーシア視察旅行の体験…この幸せを法人職員みんなに届けたい共有したい。

共育ち共育ちがそこにある。毎月、月初めに発行している保育園の「おたより」や園内研修等でマレーシアの視察旅行の様子を伝えてきた私たち。ですが、現地に行ったことのない職員には遠い存在だったことも認めませんでした。

そこで思いついたこと。

「中澤せんせーい！鳩の森にきてくださーい！」でした。

先生は嬉しいお返事をすぐに返してください、6月5日(土)の法人学習会に私たちのこの想いを鳩の森職員、総勢100名に届けることができましたことをご報告いたします。

★★★★★

この後、少しの時間でしたが、会場の皆さまから様々なご意見をいただきました。

ACEの今後における資金調達のご心配やどうすれば会員増を図れるか？等々。また基金の創設などのご意見も出ました。いずれにしても、前向きで真摯な討議に感謝の気持ちでいっぱいです。ほんとうにありがとうございました。

現地報告①は、ベナンから(内海明美氏)サラワクから(中澤和代)でしたが、紙面の都合上、事業報告よりご推察ください。

(文責 中澤和代)



<みんなで楽しんだベイゴマ大会>

平成21年度 決算報告

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

単位：円

収入 内訳	9,794,721	支出 内訳	7,761,030
前年度繰越金	2,672,428	海外支援協力事業費	4,488,000
会費収入	3,588,000	(マカ) ACS 支援	1,000,000
総会参加費収入	185,000	(サラワ) RCS 支援	1,000,000
国際ボランティア貯金配分金	2,403,000	(国際ボラ配分金サラワ)	2,338,000
民間助成金収入第8回	450,000	(読売光と愛の事業団サラワ)	150,000
(日本社会福祉弘済会)	300,000	講演会(総会)事業費	329,840
(読売光と愛の事業団)	150,000	報告会(地方会)事業費	0
寄付金収入	496,000	会紙発行発送事業費	150,000
預金利息	293	現地交流事業費	50,000
		現地調査研究費	50,000
		広報紙発行発送事業費	500,000
		派遣スタッフ(マカ)滞在費	900,000
		派遣スタッフ(マカ)航空運賃	74,140
		現地事務諸経費	200,000
		印刷費	0
		通信費	43,182
		外国為替手数料	42,500
		会費入金手数料	31,750
		雑費	20,775
		国際ボランティア貯金返還金	880,843
		(19年度上期分)	210,281
		(19年度下期分)	605,562
		(20年度変更分)	65,000

3月31日	単位：円
預金残高	2,006,762
現金残高	26,929
次期繰越	2,033,691

平成22年度 事業計画

事業名	事業内容	実施 予定日	実施予定 場所	従事者 予定数	受益対象者 の範囲・数	支出 見込額
海外支援 協力事業	マレーシアの地域福祉活 動への協力支援活動	通年	ベナン サラワク	1名 2名	知的障害利用者 100名余家族住民 サラワ少数民族のメン 利用者と村落部住民 トイレ・シャワ設置	千円 1,000 1,000 1,756
報告会 総会	講演・公開座談会 マレーシアでの活動報告	2010年 6月19日	東京	10名	本会会員・一般 参加者約80名	350
現地交流 事業	現地訪問・交流 ワークキャンプ	2011/2 2010/9 2011/3	ベナン・サラワ サラワク	2名 2名 2名	本会会員10名 参加者 20名	50 現地処理 0
地方会	国内に於いて 活動報告研究会開催	2010年 11月13日	沖縄県	7名	本会会員・一般 住民約70名	50
会誌発行	ACEだよりの発行 配布	年2回		2名	本会会員 494名	150
現地 調査研究	サラワの福祉状況 調査・研究	通年	マレーシア サラワ州	2名		50
広報誌 発行	「Dari Kuching」の 発行・配布	年3回		2名	広報誌のため不 特定1700部発行	500

◆◆◆◆ ペナン ACS 近況・Diana さんの婚約 ◆◆◆◆ 内海 明美



<幸せいっぱいDiana さん>

ステッピングストーンの織物部でトレーナーになった Diana さん(26 歳)が、3 年の交際期間を経てめでたく正式に婚約。お相手は Perlis 州に住む Zulkefli さん(製氷会社勤務 25 歳)。ステッピングストーンの元職員の紹介だったそうです。3 ヶ月ほどして彼から電話メッセージが届くようになり、電話で話すようになったのは 1 年後。やがて休日に彼が彼女の村に来るようになり、会えるようになったようです。その後、彼は、Diana さんの実質的に親(家長)の役をしているお兄さんに

会いたいと言うようになり、彼女は彼が本気で交際していることが分かったそうです。でも、彼の所から Diana さんの村までは車で 2 時間かかるため、そう度々は会えず、しかも彼の休み次第だったので彼女は待つばかりの期間が続きました。ステッピングストーンメンバーも職員もこの交際を知ってはいましたが、ハラハラしながら見守ることしかできなかったのです。

彼女から 6 月 27 日に正式に婚約式だと聞いた時は、みんなホッとしておめでとう！と言いました。当日、身内だけの婚約式でしたが、彼女の村の長老に証人になってもらい、Zulkefli さんから婚約指輪を贈られました。そのことを仲間に報告する Diana さんは輝いていました。その日の写真を彼女からみんなで見せてもらいましたが、特に女性利用者は真剣に見入っていました。

結婚は何時になるのか、まだ決めていないようですが、それまでにすることが沢山あるそうです。仕事では指輪はしませんが、その日を待ちながら精神的に落ち着きを見せる Diana さん、心からおめでとうございます。

◆◆◆ Muhhibah トピックス ◆◆◆

- ・屋外トイレ・シャワー棟の建設中
現在、野菜畑の直ぐ上に、屋外トイレシャワー棟を建てています。当然、屋外活動中に使うものですが、ワークキャンプ時の男性宿舎の後ろなので、便利です。これは、国際ボランティア貯金配分金事業の最後のものです。
- ・道路の修繕
2008 年 12 月 25 日の大雨で崩落した道路の修繕がやっと出来ることになり、間もなく地元の人たちと工事が始まります。
- ・自然染色試行始まる
白糸を玉ねぎの皮で染めたのが最初。今は、南国のマンゴー皮や果物で布の絞り染めにもチャレンジしています。

◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆

鳥や動物の生態を見ていると、“我が子を守る”という点において、ほんとうに賢い！生きるための食物を与えながらも、時には母親が身を挺して外敵から子を守り、やがて自立へと導く訓練をする。父親もまた、家族を守るためにその動きは強く素早く感動的である。それなのに、最近の日本の報道からは、我が子を守れないばかりか、ひどい虐待もある。何故？加害の人、被害の子、双方共に痛ましい。ワークキャンプに来てくださった人たちとは、社会問題を自分たちのこととして討論できる。第 9 回のワークキャンプも間近である。作業、討論ともに実りあるものにしたいと思う。(中澤和代)